

【資料1】

平成25年度 武雄市立山内西小学校 学校評価計画

1 学校教育目標
やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く 山内西の子

2 学校経営ビジョン
学校像…信頼される学校 明るく、礼儀正しい学校 清潔で、落ち着いた学校 保護者、地域との連携による開かれた学校 児童像…やる気いっぱい、進んで学ぶ子(知) 笑顔いっぱい、やさしい子(徳) 元気いっぱい、たくましい子(体) 教師像…教育愛と使命感に燃える教師 魅力ある授業と指導ができる教師 向上心もち、協同で取り組む教師 児童理解に努め、率先垂範する教師

3 本年度の重点目標	4 前年度の成果と課題
① 確かな学力の向上 ② 立腰教育の徹底、推進 ③ 豊かな心を育む教育の推進	○昨年度の成果として、学校経営ビジョンの周知にあたっては、全校集会や児童集会等において、周知度を向上させることができた。学力の向上では、全職員で学校教育目標の具現化に向けて、重点目標である「ICT利活用の推進」に取り組んで、電子黒板、電子教科書等、授業で使用する頻度が一気に向上した。学力向上対策の一環として、全職員国語科で研究授業を行い、児童に付けたい学力について学び合うことができた。 ◎本校がめざす「立腰教育」「家庭学習」の充実を図り、基本的な生活習慣の確立とあわせて、学習習慣も定着させていきたい。また、支援を要する児童についての理解を深め、児童・保護者へのさらなる啓発を図るとともに、今後の支援について、さらに関係機関と密接に連携し、よりよい支援のあり方を探っていきたい。

5 総括表

① 確かな学力の向上

	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ 学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・学力状況調査、市漢字、計算検定で、基礎学力の向上に努める。 ・やる気タイムの定着を図る。 ・少人数、TT授業等で授業改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武雄市漢字検定、計算検定で、昨年度の平均を上回る。 ・全国、県学力状況調査で4教科県平均を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・検定に向けて学習する時間を確保する。 ・間違った問題については、再度、やり直しをさせ、全員が基礎的な内容を理解できるようにする。 ・やる気タイムを週3回帰りの会後に設け、全職員で指導にあたる。 ・少人数またはTT授業を全学年で取り組む。
	○ 校内研究の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用した取り組みを行う。 ・伝え合い活動を学習活動に組み込む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用率90パーセントを目指す。 ・全員授業研究を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT利活用の時間割を作成し、効率よく使用できるようにする。 ・研究授業の事前研や事後研、チェックシートなどを使って検討を行う。 ・講師招聘や先進校視察を行い、指導力を高める。
	● 体力づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・全クラスで食育授業に取り組む。 ・自力登校や外遊びの奨励をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食育の授業を全学級で行い、食育の意義を浸透させる。 ・完全自力登校率90%以上、休み時間に外遊びの達成率95%以上を目指す。 ・外遊びを積極的に行うために安全管理・安全指導の徹底を図り、昨年度より大きなけがの件数を2割減らす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食試食会において、食育に関する授業参観と保護者向けの料理実習及び講話を行う。 ・期間を決めて完全に自力で登校した児童の数を調べる。 ・全校や各学級で外遊びを推進する呼びかけを定期的に行い、走ろう旬間、なわとび旬間の後に児童のアンケートを行う。 ・前年度発生した外傷の事故件数と内容を踏まえ、時期に応じて安全指導を学級で行う。
特定課題	● 低学年を中心とした学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生活・学習習慣の定着化85パーセントを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「にっこよこのくらし」を利用し、家庭と連携して、生活・学習習慣の充実を図り、全ての児童の割合85%を目指す。 ・東書WEBプリントを利用し、児童の復習に役立て、児童の学習の定着を図り、90点以上の習得を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通信等を利用し、「にっこよこのくらし」の実態を家庭に知らせ、家庭教育の推進を図る。 ・複数の教職員で指導にあたり、形成的評価を行いながら、児童の習熟を図る。更に、一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導をし、学習・生活習慣の定着を図る。

② 立腰教育の徹底、推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
	○ 立腰三原則の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、返事、後始末の定着化80パーセントを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・くらしプロジェクトから提案された挨拶・掃除の自己評価表を使って児童の挨拶の意識付けをする。(返事と後始末についても同様にチェックする。) ・立腰の時間を使い、三原則を児童に知らせ、日々の教育活動の中で指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価表の◎・○の児童が80パーセントを超えるよう目指す。 ・「立腰三原則」を教室に掲示し、朝の時間に声に出して読んだり、日々の教育活動の中で指導する。 ・全校朝会や集会の始まりは、全校立腰から始める。

教育活動	○ 自問清掃の推進	・掃除時間の環境を整える。	・無言掃除の定着度70パーセント以上を目指す。 ・掃除用具を整える。 ・トイレがにおわないようにトイレ掃除に努める。	・静かな音楽を流すことで、落ち着いた雰囲気の中で掃除ができるようにする。 ・生活振り返り週間の時、無言掃除ができた児童を調べ、意識を高める。 ・環境委員会の掃除用具入れ調への徹底を図る。 ・環境委員会を中心に掃除強調週間を設ける。 ・トイレ掃除の手引き書を作り、掲示する。
	○ 安全教育の徹底	・校内、校外事故の0運動の展開で事故予防に努める。	・登下校時に防犯ブザーを携帯している児童を常時90%以上にする。 ・火災避難訓練や不審者侵入時の避難訓練を実施し、非常時に備えた防災意識を高める。(非常時に落ち着いて行動できると答えられる児童を90%以上にする。)	・防犯ブザー所持調査を月に1回は実施し、電池切れや破損して持っていない児童には学校用を貸し、早急に準備させるようにする。 ・訓練の事前と事後で具体的な事例を提示して、児童が判断を迷わないようにする。

③ 豊かな心を育む教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○ 教育相談	・気になる子への支援体制を確立する。 ・保護者への報告、連絡、相談体制を整える。	・気になる子や保護者への連絡、報告、相談などの支援体制を確立し、不登校、いじめ0を目指す。	・日頃から児童の視点に立ち、児童の悩みに親身になって相談に当たる。 ・スクールカウンセラーによる年10回のカウンセリングを実施する。 ・「せんせいあのね」「いじめ調査」など、定期的に児童の悩みを調査し、児童理解に努めると共に、「いじめは人間として絶対に許されない。」という指導を徹底する。 ・ケース会議や職員会議等で、気になる児童の支援体制を整える。
	○ 特別支援教育	・障害のある児童等への支援体制を強化する。	・全職員で研修会を行い、発達障害に関する認識を深め、児童・保護者へ啓発する。	・特別支援を要する児童の実態把握と特別支援教育にかかわる校内支援委員会指導体制の組織化を図り、継続的な個別支援体制づくりや支援ノートを作成する。 ・特別支援学級と交流学級との日常的な交流(朝の会・読書タイム等)を促進する。 ・特別支援学校の学校生活支援事業(巡回相談等)を実施することで、よりよい支援の在り方をさぐる。
	● 心の教育	・道徳年間計画を完全に整備する。 ・支持的風土のある学級づくりの推進を行う。 ・人権同和教育の充実を図る。 ・校内緑いっぱい運動の推進を行う。 ・児童会活動の充実を図る。	・道徳年間計画を整備することにより、道徳教育の充実を図る。 ・集会活動を充実させることにより、互いに認め合い協力していこうとする態度を養う。 ・校内人権週間への取り組み内容について検討し、更に人権同和教育の充実を図る。 ・児童各自が責任を持って育てる植物の世話に、全校的に取り組ませることによって、校内緑いっぱい運動を推進する。	・各学年で、道徳年間計画を整備する。 ・1月に、道徳の全校参観授業を行う。事前に保護者の参観を呼びかけたり、事後に取り組みの様子や保護者の感想等をまとめて便りを配付したりする。 ・校内人権週間を設け、全クラス授業実践・人権標語・人権作文に取り組む。更に、その取り組みの様子や感想等を人権集会で発表させる。 ・平和集会や人権集会では、集会活動に向けて、児童に話し合い活動を積極的にに行わせることによって、主体的に活動していこうとする態度を養う。 ・集会活動を充実させることにより、互いに認め合い、協力し合って生活していこうとする態度を養う。児童それぞれに達成目標を持たせ、達成率を90%以上に高める。 ・1・2年生は、生活科の学習を中心に、花いっぱい運動に取り組む。3年生以上は、昨年度に引き続き、一人一鉢運動に取り組む。自分が育てる植物の世話を進んで行うよう、植物への毎朝の声かけを徹底させる。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	○ 開かれた学校づくり	・学校教育目標周知率90パーセントを目指す。 ・定期的なホームページ更新等、学校教育活動の情報公開を推進する。	・「やる気いっぱい 笑顔いっぱい 元気いっぱい 輝く山内西小の子」の認知度を90%以上に高める。 ・週に1度のホームページや月に2度の学校だよりを活用し、様々な行事等を紹介し、保護者、地域住民の要望に応える。 ・3校連絡協議会等の情報交換会による交流促進、連携強化に努める。 ・保護者、地域の方に学校行事に参加しやすい環境を整備する。	・全校朝会、PTA総会などの時間を利用し、児童保護者に説明する。 ・月2回は、学校だよりを発行し、週1回ホームページ更新をする。 ・地域の会合には出席し、情報収集に努める。 ・年10回の土曜等を開校する。 ・地域人材を活用した学習活動の機会を設ける。

<p>特定課題</p>	<p>○ 読書活動の推進</p>	<p>・読書活動の充実を図る。 ・家読書の習慣づけを推進する。</p>	<p>・毎月読書冊数低学年10冊、中学年8冊、高学年6冊を推進する。 ・家読書80パーセントを目指す。</p>	<p>・毎月の学級ごとの貸し出し冊数を知らせ、担任からも声をかけてもらう。 ・おすすめの本や新刊の紹介を行う。 ・週末に本借りと家読書を勧める放送をする。 ・図書館便りで、家庭にも家読書の実践を呼びかける。</p>
-------------	------------------	---	---	---

●は共通評価項目、○は独自評価項目